

ともに生きる

命・生き方

中学校

高校

保健体育

総合

学級活動

道徳

その時 歴史が動いた  43分

生まれくる命 そして母のために ～荻野久作の受胎期発見～

(2006年放送)

この番組の良さ



人類の謎を解き明かした荻野久作

戦前、女性の排卵がいつ起きるかは謎で、不妊や多産で多くの女性が苦しんでいました。新潟の一産婦人科医だった荻野久作さん(1882～1975)は、地道な研究と「逆転の発想」の末、1924年に受胎期を発見しますが、権威のない医師の説として日本の医学界は無視しました。そこで荻野さんは、当時の医学先進国ドイツに単身渡り、ついに1930年、世界的発見として認められました。女性と赤ちゃんの命のために生涯を捧げた荻野久作さんの業績を描きます。

荻野さんの本当の思いを知る

受胎法と避妊法は表裏一体とらえることができます。「排卵は月経の12日前から16日前の5日間におきる」ことを明らかにした荻野式の学説は、世界に避妊法として広まりました。しかしそこには本当は、受胎法として母子を救いたいという荻野さんの強い思いがあったのです。

番組活用のポイント

その時、歴史が動いた

「その時」は1930年2月22日。荻野久作さんがドイツで荻野学説を発表した時です。1912年3月、大学を卒業したばかりの荻野さんは、新潟の民間病院に赴任します。当時の過酷な女性の状況を救いたと考えた荻野さんは、排卵がいつ行われるのか、地道な研究を続けました。その結果、受胎期を発見することができましたが、権威を重んじる日本の医学界には認められませんでした。「これでは臨床に使うことができない」…。そこで荻野さんは医学先進国・ドイツで論文を発表することを目指しました。そして、歴史が動きました。学説が認められた後のエピソードも必見です。荻野さんの、生涯を通じた思いに触れることができます。

人権教育・キャリア教育として

学級活動で、「男女相互の理解と協力」や「生命尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立」をねらいとする授業での活用が考えられます。また人権教育として、大正時代の男尊女卑の世の中で過酷な状況に苦しんだ女性に焦点を当てた授業、キャリア教育として、荻野さん自身の医師としての生き方に焦点を当てた授業も考えられます。

性に関する指導に関連して

現在では、より安全で確実な避妊法(コンドーム、低用量ピルなど)があり、荻野学説を避妊法として用いることはなくなりました。

高校の保健で扱う家族計画や人工妊娠中絶に関する内容では、月経周期から「安全日」を予測する方法(オギノ式、基礎体温)は、避妊効果はきわめて不確かなものとして取り扱われていることを教師は理解しておきましょう。

学習展開例

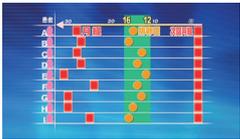
授業時間 50分



島根県教育センター
指導主事 瀬崎邦博

執筆者

生まれてくる命と母の命を守りたい 荻野久作の生涯をかけた思いとは…

時間配分	学習活動	教師の支援
3分	①生まれたばかりの赤ん坊からどんなことを感じるか、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○イメージがわかりやすいように生まれたばかりの赤ん坊の写真または、泣き声などを用意しておく。 ○荻野久作さんについて、簡単に紹介する。
14分	②番組の前半を視聴する。(4分15秒～13分59秒) <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <p>視聴 TV</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟の民間病院に赴任 ・過酷な女性の状況 不妊を理由とした離縁 多産による死 </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ○「なぜ荻野さんは受胎期の解明に挑もうとしたのか」考えさせる。 ※授業時間が十分取れる場合は、冒頭から視聴させるとよい。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <ul style="list-style-type: none"> ・男尊女卑の風潮 妊娠・出産に縛られる女性たち ・苦しむ女性を救うことができない </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ○河野美代子さんの解説(13分59秒～16分39秒)部分は、生徒に視聴させないが、教師がこのポイントを押さえるようにする。 ・大正時代の女性の様子 8～10人の出産、女性の平均寿命は43才。 男尊女卑が非常に強い時代、女性は妊娠という偶然性に振り回された生き方をするしかなかった。 </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○代表の生徒に気づきを発表させる。
26分	④続きを視聴する。(16分39秒～終わり) <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <ul style="list-style-type: none"> ・「排卵」と「月経」について、地道に追究し、法則を発見 ・論文を発表するも日本の医学界には認められず </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ○「世界の謎に荻野さんはどう立ち向かったのか」考えさせる。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <ul style="list-style-type: none"> ・医学先進国・ドイツへの渡航 ・ドイツで論文を発表 ・ローマ教皇が荻野学説に基づく受胎調節法を容認し、世界に広まる </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ○押さえないこと ・荻野学説を基礎として、受胎法も避妊法も大きく進歩した。 ・荻野理論を避妊のために用いた結果中絶につながることは、荻野さんの思いである「生まれてくる子供と母の命を守ることに反するものであること」。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツでの学説発表後教授職を断り、生涯勤務医を続け、60年で20万人を診察 ・荻野学説を利用した避妊法には異議を唱える </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○「世界の謎に荻野さんはどう立ち向かったのか」考えさせる。
7分	⑤荻野さんの生き方から自分を見つめ直す。 ・「…赤ん坊が手足をばたつかせて『オギャー』と第一声を放つその瞬間ほど心を解き放してくれるものはない…」という荻野さんの言葉から感じたことを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ○番組の最後の荻野さんの言葉を取り上げ、荻野さんの生き方のどんなところに共感できるのか、問いかける。

とせむね